

第 34 回 福島問題研究会 議事録(ダイジェスト版)

日時:平成 30 年 8 月 27 日(火)、14:30~17:00

場所:化学工学会 会議室

出席者:(以下すべて敬称略)小林、橋本、中尾、鈴木、牛尾、伊達、松田、横堀、郷(記録)、
(欠席)松井、戸井田。

1. 前回議事録

前回議事録にコメントを追記した。

2. 関連情報紹介

- (1)「IRID シンポジウム 2018」 2018/8/2、場所:東工大 〈橋本参加で報告〉
 - ・内容は、IRID の研究報告、資料は HP よりダウンロード、DropBox に入れている。
 - 研究成果の話(個別テーマの細かい話)が中心で、課題や長期タイムテーブルについては言及はなかった。
 - ・学生に研究テーマ与えて(10 件くらい)、評価し賞を出していた。IRID としては、廃炉事業への学生の就職を期待している。
- (2)「国際廃炉フォーラム」 主催 NDF、2018/8/5,6 〈牛尾参加で、報告〉
 - ・1 日目;地元との対話、
 - ・2 日目;東電の現場現況報告、ビデオ上映、英米仏から事故の参考的なプレゼン、細かい仕事の成果の話が中心であった。デブリの取り出しは深刻な問題であろうとの推測話あり。
- (3)「トリチウム水の取扱いに係る説明・公聴会」 参加者募る 資源エネ庁、8 月末に予定。
<http://www.meti.go.jp/earthquake/nuclear/osensuitaisaku/committee/takakusyu/setsumei-kochokai.html>
 - ・戸井田が応募した。

3. 化学工学会／福島原発事故対策検討委員会への対応

<http://www.scej.org/act-eve/organization/org-fukushima.html>

- (1) 参加方法; 個人ごとに参加申請が原則。化学工学会会員以外も参加可能。
HPより申込み、10 月 1 日に会合があり、それまでに参加申請のこと。
http://www.scej.org/docs/act-eve/organization/org-fukushima/20180817_join.pdf
 - ・SCE[^]Net としては、全員が参加申請することとした。
 - ・小林は幹事として入る。
- (2) どういう会となるか、「研究会規約」; 下の原文参照のこと。
http://www.scej.org/docs/act-eve/organization/org-fukushima/20180727_contract.pdf
 - ・目的:連絡、情報発信、学協会活動が中心、その窓口。
 - ・事業:(第 6 条)「…について意見交換」というのが多い、どうも進歩がない。
- (3) 印象:実行計画、具体的取り組みの明文化がされていない、前の委員会に比べて進歩あるだろうか、参加してから具体的テーマ提案することもあり(大学での除染に関する基礎データの集積経過、公開講座など候補あるかも)

4. 2F見学会について

・橋本経由で東電と下記を相談中。

①見学時期: 12月の見学を申し込んでいるが、東電側のスケジュール上難しいかも知れない。

②希望見学先: 2Fが主体であるが、CLADS(富岡)内の東電研究室を含めることもあり得る。

③人数は10人くらいか(会員の応募も含めて)。

(付)公開講座「原子力・放射能」でのアンケートで、10数名の1F見学希望があるので、従来ルートでの申し込みを考える。

5. 福島第一廃炉全体俯瞰マップ(鈴木俊一氏の提示資料)についての意見交換

(1)廃炉に関する全体俯瞰マップを東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻鈴木俊一特任教授が作成され、IRID や NDF における研究会、検討会で発表されている。これは廃炉を完成させるまでに必要とされる ACTION を階層的・時系列的に組み立て、fish bone 形式に表したものである。

これを実際のプロジェクトコントロールのツールとして完成させるには、細分化された個々の作業に付き、作業量、予算、スケジュールを定量化する必要がある。いわゆる WBS(work breakdown structure)の構築が今後必要であろうし、このようなソフトウェアはケミカルエンジニアの得意とするところであり、今後 SCENET あるいは化学工学会として智慧を出し合ってはどうか。

鈴木教授の「福島第一廃炉研究マップの俯瞰的アプローチ」の考え方については、以下の資料が参考になる。」

<http://www.dd.ndf.go.jp/jp/decommissioning-research/dr-committee/materials/03/doc3-2-3.pdf>

・福島第一廃炉研究マップの俯瞰的アプローチについて

平成 28 年 4 月 18 日 東京大学大学院工学系研究科 原子力国際専攻

<https://fukushima.jaea.go.jp/initiatives/cat05/pdf/platform0105.pdf>

福島第一廃炉研究マップの俯瞰的アプローチについて

平成 27 年 12 月 15 日 東京大学大学院工学系研究科 原子力国際専攻特任教授 (IRID 研究アドバイザー) 鈴木俊一

(2) (山本分科会鈴木俊一 G) 腐食関係の議論(ブレインストーミング)をしたこと;

・委託元 文科省 → JAEA

・山本氏が束ねる「特殊環境下の腐食現象の解明について検討する分科会」において「腐食評価・試験法」の調査中、「腐食調査表の整備」を担当する鈴木先生が主導するグループの成果について検討した。

鈴木先生が提出された資料(提出済みのもので、今後公開され入手可能となる見込み)。

・廃炉プロジェクト自体がいわば、絵に描いた餅、のレベルではあるが、全体俯瞰マップをもとにブレインストーミングし、チャートの補完、抜けていたテーマ等を入れ込んでいる。

・追加項目: 40年評価、バウンダリー機能の確保、PCVの今後の腐食対策、など、

・次回会合予定; 9月12日、その後の進展、さらに今後の予定等も出るであろう。次回報告する。

(3) 関連の進捗、資料

・NDF 10/8 技術戦略プラン(NDFのホームページ参照)

・NDF 2018/7/4「東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の廃炉のための技術戦略プラン2018の検討状況について」

http://www.dd.ndf.go.jp/jp/activity-report/lecture/pdf/20180704_siry03-1.pdf

総合的に考えるとらえ方をしている。

「俯瞰した中長期視点の必要性」を言っているページあり。

6. その他、次回日程等

次回予定は 10 月 2 日 (火 13:00–15:00) 予定。別途メールで連絡する。

<案内> 腐食防止学会の委員会から、1F 見学の案内が来ている;11/7, 8。

以上」